

6月号

# いっしん

平成30年(2018年)

第401号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 / FAX 020-4665-5653

Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御致

み教えは  
人より己が  
身の守り  
守りて後に  
人に教えよ

甘木親教会 布教115年 記念大祭 平成31年 10月  
加治木教会 矢野政美大人20年祭・矢野サダ子大刀自5年祭 平成31年2月10日

## 全国大会「作品展」共同作品作り



色塗り、乾燥作業中！



作品完成！  
ハイ、チーズ！

## 少年少女会

少年少女会全国大会  
「作品展」出品用

## 共同作品作り

間もなく梅雨入りとささやかれる五月二十六日、加治木教会では少年少女会が開かれ、全国大会「作品展」出品用の共同作品作りをしました。今年の作品のテーマは「鹿児島産の果物と野菜」です。前もって準備された和紙張り子に、素晴らしいデザイン感覚で色塗りされ、おもしろいスイカ、メロン、マンゴー、アボガド、そして野菜ができました。開会儀礼の後の、食育がテーマの紙芝居では味覚があることの楽しさ、アンパンマンの紙芝居では良い行いをすることの大切さを伝えんとされています。

共同作品を作る作業では「作品展」に出品することで、神様・教主金光様に、健康と元気に少年少女会活動に参加できていることの御礼・感謝を現わして行くことができます。

閉会式では「お家でも食前・食後訓を唱えましょう」とのお約束をしました。けっして参加者が多いわけではありませんが、細くとも長く続けること、絶やしてしまってはいけない、という深く尊い教育的な意味合いを実践し通して行くことは、とても大切なことであります。

# 甘木親教会 布教記念祭奉祝 バレーボール大会

五月四日(祝)甘木親教会では、布教記念祭奉祝バレーボール大会が開かれ「南九州チーム」で参加のかけを蒙らせていただきました。



開会式・閉会式は甘木教会体育館で

甘木親教会では、五月八日が布教記念日であり、例年「布教記念祭」が仕えられます。



ゲーム開始前の整列・握手

今年第六十四回となる奉祝バレーボール大会には、約三十チーム(同数ほどの教会)の参加がありました。加治木教会からも、四名が参加させていただきました。「南九州チーム」は、今年は人吉・宮之城・多良木・加治木の四教会での合同チームでした。

で優勝したため、来年からはEリーグに上がります。



矢野裕子さんのサーブ、エイツ!



表彰状  
Fリーグ 二位 南九州 チーム  
あなたは第六十四回布教記念祭奉祝バレーボール大会において頭書のとおり優秀な成績を収められましたのでこれを表します  
平成三十年五月四日  
金光甘木教会  
教会長 安武 孝 蔵



全試合終了後の記念撮影

「南九州チーム」は人数が足りず、飯塚東教会のちびっ子たちにも入ってもらいました。



表彰式(フリーグ1位)



信心のご縁につながる若者たちが、健康の御礼を申し、現わす行事として、バレーボールを通して交流を深め、甘木親教会のお庭に集うことは、信心の成長の上にどれほど有意義なことか計り知れません。



バレーボール大会終了後、安武光太郎先生(人吉教会)のお父様 安武 光 先生宅にて「南九チーム」は、バーベキューをごちそうになりました。



大変大変  
お世話に  
なりました。



加治木教会

# 天地金乃神御大祭

仕えられる

新緑の季節を迎える、四月二十九日(祝)加治木教会では天地金乃神御大祭が仕えられました。

前日から信奉者一同で、掃除や直会の準備・玄闈幕や小旗張り・下足箱準備など、信奉者一同で御用が進められました。

ご祭典は教会長祭主のもと麗しく仕えられました。ご教話は、志布志教会長 馬渡三郎先生(連合会長)でした。志布志教会初代のお話を中心として天地金乃神御大祭の意味合いなどを拝聴させていただきました。



ご祭典



青年会玉串奉奠

「ご教話(要点・要旨)  
志布志教会

## 馬渡三郎先生

志布志教会の

初代、祖父の馬渡磯太郎は、昭和五年頃ですが「一心の信心」ということで、お話しをしています。



信者時代に、親教会である、都城教会の初代高松栄先生から頂いた「一心の信心」というものを体現して行っています。都城教会の初代の先生は、常々のご理解に「自分がおかけを頂いならば、そのおかけを頂いたことを通して難儀な人を取次ぎ助けるお役に立たせていただく、そういうお手伝いをさせていただく、信者としてそういうおかけを蒙らしてもらうことが大事です」と常々言っておられたということです。

志布志教会の初代は、そのことを「我が身に引き替えても、おかけを受けさせたい」と思っています。もうこの時期には、胃がなか胃潰瘍でありましたが、その中に、難儀をしている人におかけを受けさせたいと思い、肺病(結核)で病んでいる、友達だった古家龍雄さんという方の

所に、出かけて行っただけ、自分がおかけを頂いた話をいろいろと話していくうちに「磯太郎さん、あなたが言うのだったら私も、その金光様という教会にお参りしてみようか、連れて行ってくれ」と言われ、都城教会に導きました。

都城教会の初代親先生が「古家さん心配なさるな、この神様は私たちそれぞれ一人一人の魂の親神様である、即ち身体(からだ)も、その神様がお作りになられた身体である、天地をつかさどってある大親神様であるから、我々が産みの親に、物事を頼むのも同じでありますから、いかなる難儀な病気であろうが、いかなる難儀なことであろうが、一心の信心、実意をもってお願いをすれば、必ずおかけを下さる、教祖様のみ教えに、心配する心で信心せよ、真に有難きと思つ心すぐみかけの始めなりと、み教え下さってあります。必ず疑わずに一心にお願いなされば、神様から助けていただくことができます。」と、み教えされたことが残っています。

さらに志布志の初代は「関町の松山健三さん、平田の高橋の息子さんは肺病で寝たきりであったけれども、神様のおかけを頂いて、今では病気の前より健康になり日々働けるおかけを頂いておられます。そのようなおかけを頂いた話は、

三年前のことで、今は元気にしておられるから、あなたもおかけを頂くことができます。」と、古家さんに信心ができるように一生懸命励まして導き、とうとう病気が治られて、後には古鉄商や古物商などを始められ、その子孫の方たちは現在、都城や財部や鹿兒島におられ、皆信心が伝わっています。

そのような内容を記された物が見つかったときに、都城教会の今の親先生（乗原先生）に「このようなものが出てきました。その中にこういうことがあったと残っております」と申し上げますと「そのようなことがあったのですか、そのような物が出てきましたか」と非常に喜んで下さいました。

私は、そのような初代の話を記録したものは志布志教会にはないと思っておりましたから、私自身も感動しました。その中に「一心の信心」と、という言葉が何度も出てきます。

乗原先生から「志布志教会の初代の信心の中心にあるものは、この『一心の信心』であり、これを中心として今から求めて行ってください」と言われ、それまで私自身の信心の進むべき方向がひとつもわからなかったのが、はっきりと定まった気がしました。

それと同時に、今まで気づけなかった、

つながらなかつた、これまでの志布志教会の断片的なできごとや事がらが、関係性を持ち、つながっていることがほとんど分かって行きました。

それが十数年前のことですが、私自身も、信心の方向性が定まって行くことになりました。

それから教会家庭にも信奉者家庭にも、本気でお取次ぎを頂かなければ助かって行けないことが次々に起こってきて、今までお取次ぎを頂かれなかつたこともお取次ぎを頂かれるようになってきました。

そこで私自身が、志布志の初代が求めて行つた「一心に取りすがって行く信心をせよ」ということを求め示して行くことができるようになったのです。

私は、背中に冷水を浴びさせられ鳥肌が立つような、それこそ「鳥の飛び立つような」思いがしました。

そうして「志布志の初代もそのような感動をたくさん頂き、それをもって御用



馬渡三郎先生

に当たってきたのだ」と思え、それまで知らなかつた志布志の初代を見させてもらい、触れることができた思いがし「有難い、

勿体ない、恐れ多い」という気持ちにならせてもらいました。

この天地の親神様の御大祭は、自分にかけられた、目にはなかなか見えない親神様の願いと、私であれば、親神様が馬渡家につけられ、初代が求めて行つた「一心の信心」という願いを分らせてもらい、改めるところは改めて、気付き直すことは気付いて、生神金光大神御取次の働きを現わし、道を人に伝えて行くことであると思います。

現教主金光様の仰せられる「神人の道」という、神様のおかけを受けて人が助かって行くことのできる道を現わし伝えて行かなければならないと思いません。



御大祭前日御用



## 遺

## 稿

昭和五十八年  
「いっしん」より

矢野政美大人二十年祭を来年(平成三十一年)二月にお仕えするにあたり、矢野政美大人をはじめ共に信心を進めた方々の遺稿を掲載し、当時の信心姿勢に触れて、改めて頂き直し、お慰びさせていただこうとするものであります。

## 体験発表

故 福元フサ子氏

(昭和五十八年二月二十七日始伊地区信奉者大会)

皆さんこんにち

ちは、私は今日までお陰を蒙らせて頂きました事を、神様への御礼としてお話しさせていただきます。



故 福元フサ子氏

私は、昭和三十八年から近くの病院へ勤めさせて頂きまして五年後に今の主人と御縁を頂き、二人の男の子を授かりました。共稼ぎをさせて頂いておりましたが、無理がたたつたのか、元々体の弱い主人でしたので、風邪をこじらせ、他の病院へ入院させて頂くことになりました。

当時、上の子が三才下の子が一才二ヶ月で、よちよち歩かせて頂く頃

でした。主人の弟が学校の先生をさせて頂いておりますが、その弟嫁が尋ねてきてくねまして、上の子を預かると言ってくれました。

私も随分迷いましたが、二人の子を抱えての勤めは大変だと思い、その気にならさせて頂いておりました。翌日、親先生にお取次頂きましたところ「父親に別れ母親にまで離れて暮らすのは、可哀想…」とお諭し下さいました。私もそうだと気持ちを変え、腹を決めさせて頂きました。

教会の親奥様が、人の助かることならと、二人の子供を昼間は見て下さいました。

主人は入院させて頂きまして、間もなくお腹がせきだし、栄養をとらせて頂かねばならない病気ですのに、食事が頂けなくなりました。

体の丈夫な人なら、手術でもなさるでしょうけど、内科的に治そうと、毎日痛み止めの注射を打って下さったのです。そうしてありますうちに、ある日腸が破れてしまい腹膜炎をおこしました。

病院の先生から、手術をしなければならぬからお電話がございま

したので、お取次ぎを頂き、すぐ病院へ行かせて頂きました。

主治医の先生が「手術をしなければダメだ、手術をしても助かるかどうかわからない。連絡するところがあれば、連絡しておきなさい。」とお言葉でした。私が大丈夫でしょうかとお聞きしても、ご返事をなさいませんでした。

親先生にお取次ぎさせて頂きまして、水俣に姉がおるものですから、そちらの方へも連絡させて頂きました。

手術が夕方の六時から十一時までかかりましたが、その間親先生は、御祈念し続けて下さいました。

姉の方も、家族そろって水俣教会へお参りさせて頂き、御祈念をさせて頂いておりました。

親神様、親先生のお陰様で、手術も成功させて頂き、九死に一生を得まして、お生命の継ぎ穂をさせて頂いたのでございます。

子供も、現在四年生と六年生にならせて頂きましたが、私が朝参りできませんので、お昼時間に主人と自分達のお礼のお届けをさせて頂いて

おります。

上にあげたものは、下におりてくる道理になっておりますが、たいしたお礼もできておりません私に、神様は何倍にもしてお陰を下さいます。

今の世は、共稼ぎさせて頂いても難しい世の中でございます。上を見れば限りはございませんが、私なりに衣・食・住に何不自由なくお陰を頂きお繰り合せ頂いております。

主人も御神米を毎日一体ずつ頂かせて頂いております。

私も、時々主人の所に自転車で行かせて頂きますが、自動車が多く、自分が気を付けていても、事故の多いこの頃でございます。

私は「金光様、後からも前から追突しないで下さい。私がどうということがある、一家全滅でございます。まだまだ御恩の一端でも、報いさせて頂きとうございます」とと念じながら行かせて頂いております。

信心のない人は、私に「ぶ運が悪かったね」と言われる方がございますが、私はぶが悪いなどと思つた事は、一度としてございません。

学校の先生が、家庭訪問にこられ

た時も「私は信心を頂いておりますから先は何の心配もございません」と、お話しさせて頂いております。

今、中学生の暴力事件が、あちこちで起きていますが、子供達に「あんな達は、あんなことをしなさんな」と申しますと「お母さん、僕達はあんな事をするはずがないでしょう、少年少女会に行ってるから」と言ってくれます。

私も、勤めさせて頂きまして、今年で二十年にならせて頂きますが、患者さんも多く、月始め十日間は日曜日も返上で毎日深夜まで、残業させて頂いております。

若い人達も肩が凝ると、湿布などしておられますが、私は肩ひとつも凝らずおかげを頂いております。

給料の方も、院長先生が五十円違つてもうるさいから、他言無用だよと、七十名余りの給料の計算も、一人でさせて頂いております。

一千万円余りのお金を封筒に入れさせて頂いておりますが、一円の間違いも許されません。

入れさせて頂きます時も「金光様、どうぞ間違いのございませんよう

に」とお願いして、入れさせて頂いております。

自分の力では、何一つとしてできないのでございますが、すべてを親先生にお取次頂き、二十年間事故もなく神様から御用に使つて頂いております。

今年は、教祖様百年祭という意義あるお年柄でございますが、親神様の一番お喜びになる、お手引きの御用を一人でもさせて頂き、神様の御気感に添わせて頂き、信心にならせて頂きますよう念じております。

又、教祖様百年大祭には、皆様と共に元氣でお参りさせて頂きます事を楽しみに、日々を過ごさせて頂いております。

おわり



故 福元フサ子氏  
(昭和60年頃)

— 雑感 —

# ある日のゴミステーション

矢野文枝

加治木の町に住ませていただいて、三十年ほどになります。

地域の班長も何度が引き受け、おかげさまで地域の方たちとも顔見知りになり、今では気軽にお互いに声をかけることができるようになりました。

最近、地域のゴミ出しの時に、袋に名前を書いて出すようにということになり、というのも、燃えるゴミをだす日、不燃物のゴミを出す日、資源物を出す日と、日時が決まっているのですが、それを守れず、適当にゴミ袋に入れて出す人がおられ、名前を書いて出すようにと、自治会の方で決まり、閲覧板でも、会長さんの方から念を押され「ゴミを出す時には名前を書いて出して下さい」と、印刷したプリントが配られました。

ある日のこと、朝、ゴミステーションに、



矢野文枝先生

「名前が書いてない」と、小言をいながら名前の書いてない袋は鉄策の中から出され、きちんと並べてありました。

後で気付いたのですが、鉄策の中から出されていた袋は、カラスが喜んで口ばしでゴミをあせり、大変なことになっていました。

親切心で名前の書いてない袋を鉄策の中から出してあったのですが、いったい何が良いのかわかりません。

せっかく鉄策まで作ってもらって、安心してゴミを出していたのに、名前を書いてない袋は鉄策から出され、カラスにやぶられ大変なことになり、そこを通られた地域の方が慌てて片付けをされました。

その一幕が終わって、後で思い返してみますとへああ、あの時にカラスがつつきに来ることを気付いて、カラスのことまで話していれば、こ

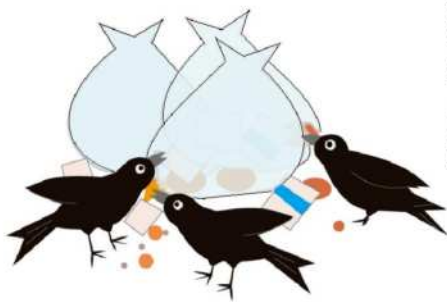
ういうことにならずに済んだのに」と、残念でなりませんでした。

急いでいるとその時は何も気付かなくて、後になって、

もう少し親切な心でどうにかしていれば、カラスにゴミ袋を食い散らされないで済んだのです。

もう少し親切を尽くすことが大切なことを神様が気付かせてくださったのでしよう。

人を責めることは良くありませんが、ついへああ、あの時にもう少しどうにかしていればと考えさせられるようなことでした。





## お誕生

おめでとうございます

吉屋大樹さん、さおりさん  
ご夫妻に、五月十一日  
あんじゅちゃんが生誕  
されました。

萬代慎太郎さん、麻佑子さん  
ご夫妻に、五月十九日  
直太郎くんが生誕  
されました。

お健やかな  
ご成長をお祈り申し  
上げます。

### あしあと

5月

加治木教会行事記録

31	26	22	21	20	13	10	9	5	4	3	1
(木)	(土)	(火)	(月)	(日)	(日)	(木)	(水)	(祝)	(祝)	(祝)	(火)
清掃御用	少年少女会 作品作り	●月例祭・共励会 13時半	清掃御用 10時	串木野教会九十年記念大祭	上荒田教会御大祭 11時	●月例祭 <small>生神童光 大神様</small> 10時半	清掃御用 10時	西鹿児島教会御大祭 12時	甘木親教会バレーボール大会参加	大口教会 御大祭 12時	●報徳月例祭 10時半

## まごころ運動

少年少女全国大会に向け(7月末まで)

に折り組みましよう。

平和の折りづる

※古切手・古カード  
えんぴつ(新)  
を集めます。

▼換金後、海外の悪まれない子どもたちへ送られます。

### 使用済み切手収集についてのお願い

- \*切手ははがさないで、以下の要領で切り取ってください。
- \*切手の周囲を5mm程度あけて切り取ってください。
- \*枚数を明記してお届けください。
- \*外国切手や台紙からはがした切手がある場合は別にしてお届けください。

### ご霊神様のおまじない

六月

平地正巳	之霊神 (1日)	昭和20年
前田 豊	之霊神 (6日)	昭和20年
星原雅志	之霊神 (11日)	昭和56年
最勝寺ヒサ	之霊神 (11日)	平成11年
汰木セツエ	之霊神 (11日)	平成22年
大重為光	之霊神 (20日)	平成18年
三反クニ子	之霊神 (24日)	昭和21年
平地フチエ	之霊神 (25日)	昭和18年
安武シケ	清和大刀自之霊神 (26日)	昭和32年
前田賢二	之霊神 (27日)	平成3年
金竹フミ	之霊神 (27日)	平成25年
本中野米子	之霊神 (30日)	昭和62年

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

使用済み切手の収集は少年少女全国大会「まごころ運動」の取り組みのひとつです。

六月十七日(日) 午前十時半より

加治木教会(布教記念祭)

布教67年記念祭奉仕

※祭典後、教話。

六月二十二日(土) 二十四(日)

加治木教会出発  
二十三日 午前九時(十四時開会)

青年ふれあいフォーラム

於・日田教会(大分県)

参加費 二〇〇〇円  
(旅費・連合会より二万円助成)  
七人乗りワゴン車乗合せの予定

六月三十日(木) 十時半より

上半期感謝祭奉仕

※感謝祭お届け用紙、ご記入の上御結果へお届け下さい。

七月八日(日) 十時半

場所・枕崎市泉町公民館  
鹿児島地方教会連合会 主催

信奉者研修会

講話 熊本教会長  
萬野信一先生

教会行事

6月

- 1 (金) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (日) 親教会参拝日(参拝未定)
- 2 (土) 3 (日) 信徒部 教区委員会 (於・大分教会)
- 5 (火) 5 6 (木) 教区 教師研修会
- 9 (土) 清掃御用 10時
- 10 (日) 御本部教団独立記念祭(参拝未定)
- 10 (日) ●月例祭 生神金光 大神様 10時半
- 14 (木) 連合会 教師研修会 於・加音 ホテル金鐘堂
- 17 (日) 加治木教会布教六十七年記念祭
- 21 (木) 清掃御用 10時
- 22 (金) ●月例祭 共励会 13時半
- 23 (土) 24 (日) 青年ふれあいフォーラム(於・大分県 日田教会)
- 26 (火) 甘木親教会 教師婦人部会
- 29 (金) 清掃御用 10時
- 30 (土) 上半期感謝祭 10時半

《未定行事》青年会・若婦人会・少年少女会

七月二十九日(日) 午前十一時より

加治木教会 前日御用奉仕

祈願祭奉仕

講師 人吉教会長  
安武光太郎先生

7月

- 1 (日) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (火) 親教会参拝日(参拝未定)
- 9 (月) 清掃御用 10時
- 10 (火) ●月例祭 10時半
- 15 (日) 少年少女会 10時半
- 16 (祝) 甘木親教会 教師研修会
- 17 (火) ●甘木親教会 祈願祭
- 21 (土) 清掃御用 10時
- 22 (日) ●月例祭 二祭典のみ 10時半
- 25 (水) さつま会(連合会 婦人教師会) 10時半
- 28 (土) 御用奉仕
- 29 (日) ●加治木教会 祈願祭 11時
- 31 (火) 清掃御用 10時

加治木教会 バンド練習会

練習日は随時  
連絡します。

今年も練習会に  
参加のおかげを  
頂き、みんな  
で8月の全国大会  
で、健康の御礼  
を現させて頂いた  
だきましよう。

